

(5) 布佐地区

ア. 景観特性・課題

i 住居系土地利用

- ・大規模な住宅地である布佐平和台では、緑地協定・建築協定を結び、生垣、街路樹などの緑豊かな景観に配慮したまちなみが見られます。
- ・駅の北側には低層な住宅地がありますが、緑が少なく道路も狭いところがみられます。
- ・沿道の生け垣、屋敷林などが成田街道の面影を偲ばせています。
- ・布佐下地区は、昔ながらの面影を残す家並みにより、集落地の風景を醸し出しています。

ii 商業系土地利用

- ・駅前から国道356号の交差点を中心として商店街が形成されていますが、歩行者空間や店舗前のゆとりもないことから、都市基盤整備を行いまちなみの魅力の向上が望まれます。

iii 駅前の土地利用

- ・布佐駅南口は、駅前広場を含めデザイン的にも整えられています。

iv その他

- ・利根川の水運で栄えた歴史性を背景にもつ地区です。しかし、今ではその面影もほとんどみられず、こうした地域の歴史的資源を地区の特色として再認識し、利根川との結びつきを取り戻したいものです。
- ・布佐南地区において、市民と市の協働によるまちづくりを進めています。
- ・宮ノ森公園、竹内神社、小学校、中学校が集まっており、お互いに行き来できるよう配慮されています。
- ・竹内神社の参道空間の松並木がアプローチを彩っています。
- ・浅間神社は、自然性の高い鎮守の森を形成しています。
- ・布湖排水路は、我孫子ではめずらしくなった自然護岸の水路で、野鳥や水生生物が生息するのどかな景観を醸し出しています。

イ. 景観形成の方針

■布佐地区景観形成のテーマ

利根川の水辺の記憶が息づき、田園の趣が感じられるまち

■布佐地区景観形成の方針

- i 利根川の空間を活かした景観づくり
- ii 豊かな田園景観を活かした景観づくり
- iii うるおいと落ち着きのあるまちなみ景観づくり
- iv 水との関わりの深い歴史性を意識した景観づくり

i 利根川の空間を活かした景観づくり

○水辺景観形成エリア
(利根川)

- ・利根川の水辺の保全を図り、うるおいのある水辺景観の形成を図ります。
- ・橋梁の橋詰などのスポット的景観整備、橋のデザインなど魅力ある景観形成を進めます。
- ・利根川に沿って、自転車あるいは歩いて楽しめる回遊帯おびの形成を図ります。

ii 豊かな田園景観を活かした景観づくり

○緑の景観形成エリア
(田園景観、斜面林)

- ・市街地を縁どる斜面林と田園景観や、既存の集落地と一体となった景観の保全、育成に努めます。

○農村集落地景観形成エリア
(成田街道沿い・布佐下)

- ・地域の特色をつくり出している屋敷林などを保全、活用し、農地や既存の集落と一体となったまちなみ景観の形成を図ります。

○歩行者の回遊帯おび
(布湖排水路)

- ・周辺の自然環境、生態系に配慮し、水と緑の回遊性をもたせた親水性の高い景観の帯を形成します。

●布佐地区景観形成方針図

